

明日の記憶

観賞日 2022年9月19日 上映時間 122分

【概要】

制作 2006年

監督 堤幸彦

原作 荻原浩 「明日の記憶」

脚本 砂本量、三浦有為子

音楽 大島ミチル

撮影 唐沢悟

出演 渡辺謙（佐伯雅行）、樋口可南子（佐伯枝実子）香川照之（河村篤志）
遠藤憲一（長谷川局長）、吹石一恵（伊東梨恵）、坂口憲二（伊東直也）
及川光博（吉田医師）、田辺誠一（園田）、渡辺えり子（浜野喜美子）



【あらすじ】

佐伯雅行 49歳、仕事一筋で「ビシッと行こう」が口癖の広告営業マン。ビッグ・プロジェクトを獲得し、一人娘の結婚も決まり、公私ともに幸福の絶頂を迎えていた。しかし、このところ頭痛、めまい、極度のもの忘れ等の不調を感じていた雅行は、妻の枝実子と病院を訪ねる。すると、若年性アルツハイマーであることを宣告される。絶望して自殺を試みようとする雅行。病気が進行し、仕事に堪えられなくなった雅行は閉職に追いやりられ退職する。出口のない病気に直面する雅行と枝実子。枝実子も家計を助けるため仕事に出る。初孫も生まれ、昔やっていた陶芸を再開する雅行であったが、病気は徐々にそして確実に雅行をむしばんでいく。奥多摩の山中で、迎えに来た枝実子に出会った雅之はもはや枝実子の存在すら忘れていた。

絶望的な状況にあっても変わらぬ夫婦の情愛。深い悲しみとこみ上げる感動。映画初主演、渡辺謙、渾身の演技。

【解説】

■ポイント

●渡辺謙

- ・原作は直木賞作家、荻原浩の山本周五郎賞受賞作
- ・自身も白血病で闘病経験のある渡辺謙が原作にほれ込んで原作者に映画化権の獲得を依頼し自ら製作総指揮を執り完成させたもの。
- ・渡辺謙は2003年公開の「ラストサムライ」により海外でもブレイクし、第76回アカデミー賞助演男優賞を受賞したが、意外なことに映画主演は本作が初めて。
- ・第30回日本アカデミー賞、最優秀主演男優賞を受賞

●若年性アルツハイマー病をテーマにした名作（作品名・制作年・主演）

- ・「アリスのままで」（2015年）：ジュリアン・ムーア
- ・「私の頭の中の消しゴム」（2004年）：ソン・イェジン
- ・「半落ち」（2004年）：寺尾聰

■見どころ

●主役の夫婦を演じた渡辺謙と樋口可南子の演技

突然、絶望的な状況に置かれた主人公の苦悩とそれを必死に支える妻の苦闘を好演ラストの奥多摩山中で出会った二人、樋口の表情は涙を誘う

●大島ミチル作曲のテーマ曲

随所に流れる、「家路」（ドヴォルザーク交響曲第9番・新世界より第2楽章）に似た、もの悲しい旋律。印象に残る宮本文昭のオーボエ。

